2023年 関東大震災 100年記念行事等

2023年7月8日（土）10:00–18:00
日本学術会議講堂（オンライン配信併用）

日本学術会議学術フォーラム
第16回防災学術連携シンポジウム

関東大震災100年と防災減災科学

第4セッション「災害と情報・社会」
「関東大震災以降、どのように情報通信技術が開発され、社会的な課題が残ったのか」

趣旨説明

山本佳世子
防災学術連携体 幹事
電気通信大学大学院理工学研究科 教授

1. 第4セッション「災害と情報・社会」の背景

■ 関東大震災（1923年9月）以降の災害対策での科学技術の利活用
・21世紀になって多様な科学技術が発展
・災害対策において利用可能なものが次々と開発

■ 災害対策で利用可能な科学技術の例・・・災害の復旧・復興段階
・リモートセンシングや地理情報システム（geographic information systems: GIS）などの衛星画像，デジタル地図を用いた技術
・災害対応ロボットや無人航空機（unmanned aerial vehicle: UAV）
↑
・関東大震災当時には開発されていなかったものも有

■ 技術開発と課題
・災害時の経験や教訓を活かして，災害対策のための技術開発が急速に進み，社会実装化が進行
・関東大震災当時と類似した課題の残存
被災者への災害情報の伝達，被災地内外での情報流通，デマ情報と風評被害など

2. 第4セッション「災害と情報・社会」の目的

■ 本セッションのテーマ 「災害と情報・社会」

・理工系諸分野，人文・社会科学分野の連携・協働による分野横断的な研究，取り組みの必要性
  ・理工系諸分野で開発された各技術が，各フェーズ，各場面で，適切に，時には組み合わせて，利活用できる可能性
  ・人文・社会科学分野で得られた過去の災害の経験や教訓を，ソフト面での災害対策，理工系諸分野での技術開発に活用

■ 本セッションの目的

・理工系諸分野の専門家から，災害対策として利用可能な最新の特に情報通信技術について紹介していただくこと
・人文・社会科学分野の専門家から，情報と社会に関連した課題について解き明かしていただくこと

3. 第4セッション「災害と情報・社会」の講演（理工系）

■「災害対策としてのリモートセンシング技術の利活用」
日本リモートセンシング学会　作野裕司

■「災害対応におけるGISの利活用」
地理情報システム学会　大佛俊泰

■「災害対応ロボティクスの現状と未来」
日本ロボット学会　松野文俊

■「災害発生時やその後における無人航空機の利活用」
日本地形学連合・日本地理学会・日本地球惑星科学連合

4. 第4セッション「災害と情報・社会」の講演（人文・社会科学）

■「効果的な災害対応を実現するための災害情報の定義」
日本災害情報学会　沼田宗純

■「過去の教訓をふまえた災害対策・対応における情報科学技術の利活用と課題」
横断型基幹科学技術研究団体連合　　三浦伸也